

学会企画シンポジウム 4

小学校での英語学習はどのようにあるべきか

企画・司会：湯澤正通（広島大学）

企画：工藤与志文（東北大学）

話題提供：池田 周 #（愛知県立大学）

話題提供：針生悦子（東京大学）

話題提供：湯澤美紀（ノートルダム清心女子大学）

話題提供：吉田達弘（兵庫教育大学）

指定討論：大津由紀雄 #（関西大学）

キーワード：英語，小学校，学習

【企画趣旨】

2020 年度から小学校 5, 6 年に英語科が導入され、また外国語活動の開始も小学校 3 年に早められる。また、中学校、高等学校での英語の授業は、英語で行うことが原則とされている。さらに、大学入試では英語試験のあり方が大きな議論になっている。

国際化が進行し、今後、益々英語によるコミュニケーションが重視される中で、他のアジア諸国に比べると、依然として日本人の TOEIC 等の成績が低いという実態もあり、日本の児童生徒の英語力を高めることは日本の教育の喫緊の課題であるという考えも根強い。しかし、従来の英語の学習をそのまま低学年に移行することで、どれだけ英語力の向上に効果があるのか、そのことで逆に、小学校段階での英語嫌いが増えるのではないかと、また、英語の授業を新設する分、他教科の授業が削られ、国語や算数・数学の学力の低下が起こるのではないかと、小学校低学年からどのような学習を行ったらよいのか、校種間の接続はどうあるべきか、懸念すべき点は多い。こうした懸念に答えるべく、専門的知見やデータに基づいて、小学校での英語の学習の在り方を議論することが重要である。また、単なる方法論についての議論ではなく、子どもの言語発達の実際や第 2 言語学習のメカニズムに基づいて、学習方法やカリキュラムを考える必要があり、教育心理学の果たすべき役割は大きい。

こうした状況を踏まえて、本シンポジウムでは、小学校の英語教育の在り方について、教育心理学、英語教育学、教育実践などの異なる立場からの提言を行い、議論を深めることを目的とする。